

ヒヤリ・ハットは宝の山！

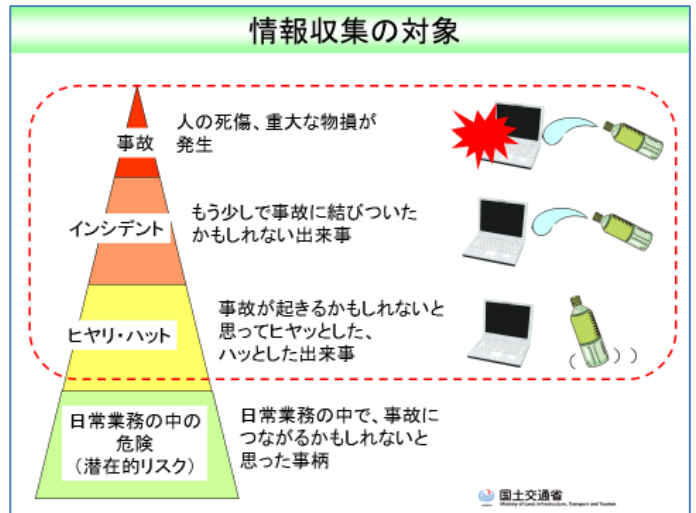
～1つの重大事故の背景には300の異常（ヒヤリ・ハット）が～

同じ事故を二度と繰り返さないことが最重要であることはもちろんですが、取組に一定の成果が出てきたり、マンネリ化して思い通りにいなくなった時には、次に「事故が起きるかもしれないと思ってヒヤッとした、ハットとした出来事」の情報を収集します。

まず、「事故」とは、右図にあるようにPCの横に置いてあるペットボトルが倒れてしまって、ハードも壊れ、PCが起動しなくなってしまったもの。

「インシデント」とは、ペットボトルが倒れたものの、ハードは壊れずそのまま使用出来たため、結果として事故には至らなかったもの。

「ヒヤリ・ハット」とは、ペットボトルが揺れたものの、倒れずに中身もこぼれなかったものです。

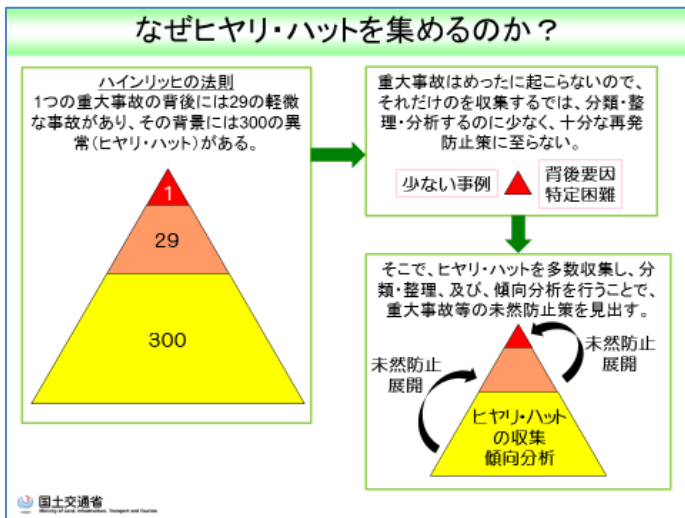


日常業務の中の危険（潜在的リスク）とは、そもそも、PCの近くにキャップを開けたままのペットボトルを置くという行為・・・とイメージすれば、感覚的に理解できやすいと思います。

重大事故はめったに起こらないので、それだけを収集するのでは、件数が少なくて十分な分析ができず、背後要因の特定も困難な場合があります。

ヒヤリ・ハットを集める目的は、ヒヤリ・ハットの段階、すなわち事故やインシデントといった不具合事象が発生する以前の段階で対策を立て、このような事故や発生を未然に防止しようというものです。

また、このヒヤリ・ハット情報についても、自社のリスクの傾向を見出すことが出来ます。

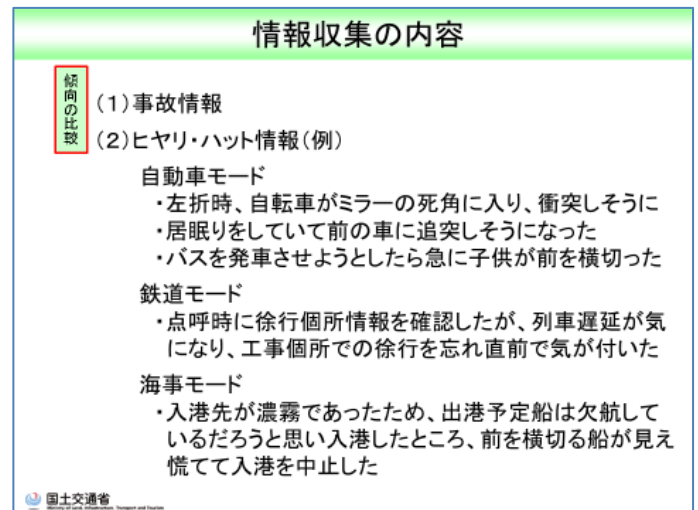


では、具体的にはどのような情報を収集するのかということ、いくつか例をあげてみました。

この場合、事故情報との傾向の比較をすることも、背後要因の特定に役立つものです。

事故にはならなかったとはいってもヒヤッとした事象は起こっていることですから、これらについても根本原因、要因を分析し、事故の未然防止に繋げていかなくてはなりません。

「左折する時、自転車がミラーの死角に入り、気づかず衝突しそうになった」ことは、まさに、再発防止に取り組んでいる事象と一致していますので、早速情報を皆で共有し、注意を喚起する必要があります。



このように、事故が起こる前に対策を立てることで、自社の損失を未然に防ぐことから「ヒヤリ・ハットは宝の山」とおっしゃる会社もあります。